

桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 41 号

発行日 2018.11.18

発行者 桜船会

発行責任者 木村允紀



▲秋のバス旅行「伊香保温泉と谷川岳ロープウェイ&ぶどう狩り」の榛名湖での集合写真

第 26 回総会報告

ハイキング同好会活動報告

デジカメ同好会活動報告

第 3 回趣味の作品展示会

いきいきライフ：乗馬に魅せられて

いきいきライフ：旅は感謝と励まし

いきいきライフ：庭仕事記・昆虫記

いきいきライフ：ヨーロッパ北欧の旅

行事報告：秋のバス旅行報告

事務局だより・編集後記

事務局長 森田 茂

富山勝己

市川洋子

馬場景一

原 正樹

竹谷康生

木村育雄

古宮龍夫

譲原長治

事務局・編集班

第 26 回 (平成 30 年度) 桜船会総会

事務局長 森田 茂

去る 5 月 27 日 (日) 情報総研大会議室において第 26 回総会を開催しました (出席 102 名、委任状 74 名)。また今回も昨年に続き総会開始前の時間にロビーで昨年よりも時間枠を広げて「趣味の作品展示会」を開催しました。8 名の方が出展され、大盛況でした。

総会は司会が馬場幹事で、物故会員への黙祷のあと、木村会長の挨拶に始まり、続いて中川路哲男情報技術総合研究所長殿よりご祝辞を頂戴し、あわせて会社の経営状況全般及び情報技術総合研究所での活動状況に加え幅広い研究開発関連情報についてお話をいただきました。大津留誠労働組合研究所支部執行委員長殿、平川直希リビング・デジタルメディア業務部大船事務所長殿、山田直人鎌倉市議会議員殿の各ご来賓からも、それぞれご祝辞を頂戴しました。

引き続き、次の議題について担当役員よりそれぞれ報告および提案がなされ、出席会員の賛成多数により、いずれも承認されました。

- ・平成 29 年度活動報告・・・富山副会長
- ・平成 29 年度会計報告・・・伊藤会計
- ・平成 29 年度会計監査報告・・・丸屋会計監査
- ・平成 30 年度活動計画(案)・・・富山副会長
- ・平成 30 年度予算(案)・・・伊藤会計
- ・平成 30 年度役員について、堀労組副執行委員長殿より次のとおり提案があり、出席会員の賛成多数により、承認されました。

会長 木村 允紀
副会長 市川 洋子
副会長 富山 勝己
事務局長 森田 茂
幹 事 玉田 幸吉、桜井 貫智、馬場 景一
皆川 良司
顧 問 萩原 大義
会 計 伊藤 義貞
会計監査 丸屋 完

最後に木村会長より平成 30 年度役員を代表して挨拶があり、新入会員の紹介を行って総会を終了しました。

総会終了後、会場を食堂に移し懇親会を開催しました。懇親会には、来賓の方々及び近隣 OB 会の役員の方々にも参加いただき総勢 120 名になりました。

活動報告

ハイキング同好会 富山 勝己



- △伊豆高原・大室山を背に (2018・4・10)
第 11 回「箱根・早川溪谷から千条の滝」
2017 年 12 月 1 日(金)、参加 8 名
小田原＝宮の下駅…早川溪谷…千条の滝…小涌谷駅
◎早川溪谷の紅葉は見頃でした。
第 12 回「最明寺史跡公園と松田山の足柄桜」
2018 年 3 月 13 日(火)、参加 7 名
松田駅…最明寺史跡公園…松田山…松田駅
第 13 回「伊豆高原散策と五景館宿泊」
2018 年 4 月 10 日(火)～11(水)、参加 14 名
伊東駅＝一碧湖…さくらの里…大室山…五景館(泊)
◎デジカメ同好会、役員会と合同で 4 月 14 日に閉館となった五景館・高陽楼に宿泊しました。

活動報告

デジカメ同好会 市川 洋子

花鳥風月、自然の景観など写真に残したい素晴らしい景観がいっぱいあります。参加者を募集中です。

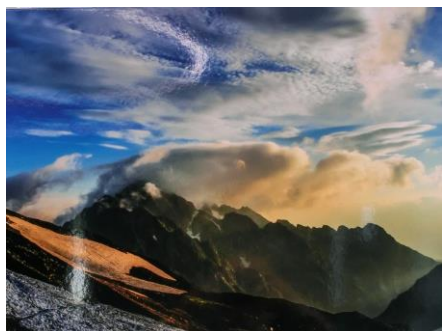


△箱根・早川溪谷の紅葉 (2017・12・1)

5月27日の総会時に第3回趣味の作品展示会を開催し、8名の方に出展していただきました。全作品をここで改めてご紹介いたします。

■ 出展者名・展示品（敬称略、順不同）

☆安西良矩・写真「朝霧舞う劔岳」



☆市川洋子・写真「灯り」（みなとみらい撮影）



☆栗山時子・染め物「作務衣上下」一式



☆小泉登夫・陶芸「歯朶模様飾り皿」「小鉢酒器」



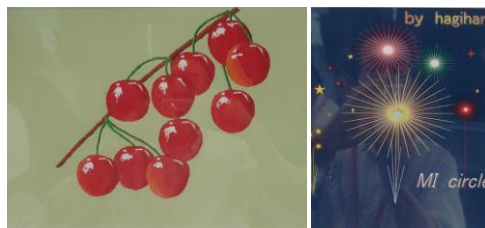
☆宮崎賢治・鎌倉彫「花器銀杏」「額版」



☆佐藤菊男・写真「おだやか」「バナナの穂」



☆萩原大義・パソコン画「さくらんぼ」「花火」



☆石井 茂・木彫り彫刻「八頭身弁財天」



■ 展示会結果

会員の皆様からは「毎回楽しみにしており素晴らしい出来栄でした」、出展者の皆様からは「出展で自信がついた、もっと多くの会員に出展してほしい」とのご意見をいただきました。次回は、さらに多くの皆様に出展をお願いしたいと思いますので宜しくお願い致します。

2016年、ひよんなことから乗馬を始めました。2020年の東京オリンピックを目指すわけではないですが、大変楽しい趣味になりました。いろいろ覚えることが多く、特に、馬装(騎乗のため鞍を装着したりする馬の準備)などは手順を覚え、正確に装着していくのは相手もあることなので緊張しますがなかなか楽しいものです。ただ乗るだけならすぐにできるようになります。

現在、月に2日(1~2鞍/日)で、通算60鞍程度乗っています。馬には名前があり騎乗する馬は乗馬クラブから当日示され、洗い場というその馬専用の区画で馬の反応を観察しながら馬装をしていきます。多い馬で10回程度乗っています。相性の良い馬もいれば、過敏で装着をきらう馬もいます。なめられないようにテキパキとやります。馬が合う/合わないというのはこういうことでしょうか。馬装ができると、インストラクターの指示に従い馬を曳いて馬場に移動し騎乗します。

最初の騎乗で感じたわくわく感は、とにかく視線が高くなり見ている景色が変わったことでした。



木々に囲まれた馬場の前で

軽速歩(けいはいはやあし)は少し速度がある乗り方ですが、振動が大きいので鎧(あぶみ)にかけた足で立つ/座るとい動作で振動を吸収します。鎧は固定されていないので、最初は鞍のホルダーを握っていないと立てませんでした。回を重ねるにつれ、しっかり自立できるようになり、技術が少しずつ進化していくことがモチベーションになっています。最近、騎乗者の体重が馬への負担になりにくい軽速歩の手前合わせ(左回りで馬の右前足が前に出た間合いで立つ)のレッスンに取り組んでいます。直径10~20mの柵(埒:らち)に囲まれたサークルを回りますがとても難しいです。

また、手綱を操作して馬の進む方向を変える誘導も面白いです。馬は前の馬についていく習性があるので、前の馬と違う方向に進むには誘導が必要になるわけです。指示を無視されることも時々あります。うま

く誘導できた時は馬との一体感とともに大きな達成感を感じます。馬には個性があって、敏感な馬やのんびりした馬などいろいろです。それぞれの馬の特徴をつかんでおくことも重要で、その意味では色々な発見をしながら、馬上からコミュニケーションを図ります。

北方謙三氏の中国歴史小説では、登場人物と馬との会話の場面が頻繁に出てきます。楊家将/血涙(4巻)、水滸伝から楊令伝、岳飛伝までの大水滸伝シリーズ(51巻)で、私の大好きな小説です。宋王朝と反王朝の熱き好漢たちとの戦いや北の騎馬民族(遼国や金国)との間の壮絶な覇権争いを描くものですが全巻読破しました。良い馬を育て、騎馬隊を編成し厳しい調練を重ねた騎馬隊同士が戦う様は、北方謙三氏の真骨頂とも言えるハードで臨場感にあふれた描写で、すぐに物語に引込まれてしまいます。

話は乗馬に戻しますが、良かった点が2点あります。1つは夫婦で共通の趣味を満喫できること。乗馬の日は2人で出かけます。乗馬は男女差、年齢差がないスポーツとのことで、一緒にレッスンを受けています。騎乗する馬との相性には、けっこう差はあるようですが。もう1つは腰痛が改善されたと感じることです。馬に揺られることで体幹が鍛えられているのでしょうか。

7月に5級ライセンスを取得しました。(公社)全国乗馬倶楽部振興協会が認定しているもので、履歴書にも書ける資格のようです。この歳になって資格に挑戦することになるとは思いませんでしたが、この資格で野外騎乗(外乗:がいじょう)ができるようになりました。旅先での乗馬トレッキングなど楽しみな選択肢が増えました。さらに上のライセンスにも挑戦でしょうか。



軽速歩のレッスン(腰を浮かせて立った瞬間)

これまで内助の努力を続けてくれた妻、遠く田舎で見守ってくれた母への感謝と、無事にハッピーリタイアを迎えた自分へのご褒美にと海外旅行を思い立ち香港・中国へのツアーに参加したのは平成2年でした。妻と母を案内する旅行は大成功で、母は初めての海外旅行で、それこそ見るもの、食べるものすべてが母にとっては新鮮な驚きで親孝行になりました。当時田舎の高齢の女性の海外旅行は珍しく、いつも自慢話の種にしていたことを思い出します。

当時母は喜寿でした、元気に米寿を迎えたらアメリカに連れて行く約束し、母はローマ字と税関での簡単な英会話の勉強始めました、念願かなってハワイに行ったときハワイの税関では日本語で質問された、がっかりしていました。次の約束の白寿(99才)は健康上のこともあってヨーロッパまでは難しく、沖縄で辛抱してもらった。このように10年刻みの目標を作ったことが、呆けることもなく、いく度かの入院にも負けず、母は104歳の長寿を全うしました。

妻とは、ヨーロッパ大陸の有名なところはほぼ歩き、特にイギリス、イタリア、スペインは、それぞれの国だけを1週間余旅行し楽しみました、トルコから帰った直後に、同国の政情不安が報じられ、早く行ってこられてよかったと喜び、逆に、テロ事件などのニュースでエジプト、ギリシャは機会を逃しました。

旅行回数は妻が自分の趣味仲間と一緒に掛けることがあり私を上回っている、もはや励ましにはなっていません。励ましとしては、息子たちが大学を卒業した時にまとまった旅費を渡し、自分で計画して好きな国に行き来いと「可愛い子には旅をさせろ」を実行して、良い経験をさせてもらったと喜ばれました。

孫2人が大学に入った時に息子家族が揃って記念の海外旅行に出かけたのを見て、立派に成長した息子家族を見ることが出来た幸せと、一抹の寂しさを覚えたこともあります。

平成29年11月のタイ旅行は、成田を17時半に出て現地時間22時半(時差2時間)バンコック到着、翌日はチャオプラヤー川を遊覧船で水上観光です。川は茶色く濁り、川岸付近にはゴミも浮かんでいて

義理にも美しいとは言えない川ですが、この川を中心にバンコックが発展した重要な川です。ところでバンコックには正式名称が別にあって、その名は11個の単語が並んでいる、落語の寿限無みたいな名です。興味のある方はインターネットで検索を。

夕方には空路チェンマイへ、チェンマイは京都のようなところで距離も東京一京都間と同じ位、観光の売り物は寺院と象の曲芸、そこに2泊してアユタヤへ、ここは、鎌倉のような古都、距離的にもバンコックからバスで1時間半くらい、世界遺産の数々の威容に妻ともども圧倒され疲れさえ覚えました。



旅の楽しみのひとつ、買い物は珍しい場所です。メークロン線路市場は線路の両側に店が軒を連ね、客は線路上を歩いて買物をする、いつ電車が来るか判らないがガイドの指定時間にもどる。

商品は衣類や食材が多く、男性は女性のお供をすることに。水上マーケットは湿地帯の茶色く濁り、周りを熱帯植物に囲まれた狭い運河を、船外機を付けた5~6人乗りのボートが元気よく走りマーケットまで客を運ぶ、品物に値札はついているが、「〇個なら〇バーツ」と日本語で交渉が始まる、交渉と買い物に女性群が堪能したころ迎えのボートが到着する。

仏教の国タイ旅行で、寺院や仏像を様々見せてもらったがまだ整理しきれていない。できれば、タイの歴史と共に勉強したい。

この観光旅行は若者向けのツアーのようで効率よく移動するので、帰るころには疲れましたが、楽しい旅でした。

旅は家族への感謝と自分へのご褒美です、健康長寿の秘訣だと思っています。

桜船会だよりへの投稿は今回で 3 回目です。最初は入会時の 27 号の「私の趣味と資格」、2 回目は 35 号の「送迎バス車中語録・珍事」でした。それぞれで好きな車や重機の免許のこと、送迎バスの中の子供たちの面白い話について書きました。今回は家族新聞に掲載している「庭仕事記・昆虫記」からいくつか紹介します。

賢い蟻

嫌いなムカデや野菜を食べるバツタはエサとして蟻の巣穴の近くに置く。暇なときはそれをじっと見ている。エサを見つけても知らんぷりして立ち去る蟻もいる。どんな集団にもいる働かない 2 割の蟻なのだろうか？ 一方で良く働く蟻もいる。

庭はほぼ雑草。雑草でも芝刈り機で短く刈れば緑の絨毯となり美しい。雑草は丈夫だし。蟻の巣穴はそんな中にある。あるとき、じっと見ていたら「く」の字に曲がった 4~5 センチの乾いたミミズを運んでいる 3 匹の蟻を発見。ミミズの両端に 1 匹ずつ、中央の曲がったところに 1 匹の計 3 匹。「く」の字の開いた方向に順調に進んでいた。ところが短く刈った草に「く」の字の中央が引っ掛かって動かなくなった。3 匹が頑張ってもそれぞれの蟻が不規則に加える力の差で僅かに揺らぐだけ。数秒間そうしていた後、1 匹の蟻が驚く行動に出た。中央の一匹が持ち場を離れ右端の蟻に加勢。左端の蟻は今までどおりに引っ張っているが 2 対 1 の力の差で「く」の字は右に動いた。左端の蟻もミミズと一緒に右に引っ張られ難所を通過。加勢した中央の蟻は元の場所に戻り何事もなかったように運搬は続いた。

別のときに同じ光景に出会った。今度は端の蟻が反対の端に回って同じようにしていた。蟻の知恵も大したもの。以上は黒蟻の話。他に赤蟻もいる。互いの巣穴の近くに別の蟻を置くと、赤蟻は小さいのに黒蟻の足に噛みついて勝つ。小さいのに強い。赤蟻は小さく、観察には不向きだが、黒蟻よりも賢いのか見てみたい。



← 蟻の観察は 30 分にも及ぶ

こんな格好で庭木の剪定→
この後の始末が大変

剪定道具 →
チェーンソー・
電気鋸など



切れるリスのしっぽ

タイワンリスやアライグマによる被害があり、鎌倉市に相談。3 年前から鳥獣捕獲許可を貰い、アライグマ檻 1 台、リス檻 3 台で捕獲中。今までにタイワンリス 100 匹、アライグマ 10 匹、ハクビシン 2 匹、狸 10 匹、猫 11 匹、他 4 匹を捕獲。他の内訳はカラス 3 匹とガマガエル 1 匹。狸・猫・他は放免。休日は捕獲動物の引き取りが休み。このため休日の前日 15 時に檻を閉め、休みが明ける前日に檻を開ける。

毎朝 4 台の檻を確認。ある朝、リス檻 1 台が見当たらない。あちこち探したところ、離れたところに転がっていた。中にぐったりしたリスが入っていた。やけに臭い。初めて見るような大きさのハエがリスにたくさん群がっている。リスは弱々しくハエを追いついてる。今にも死にそう。カラスか何かがリスを食べようと檻をつつき回して転がったのだろう。ともかくいつものように市役所に電話。名前と檻番号とエサは落花生であると伝えて引き取りを依頼した。

いつもは決めた場所に置いたリス入りの檻と、空の檻を知らない間に業者が交換していく。しかし、その日は引き取り業者に会えた。「死んでいるかもしれない」と業者に伝えたら、顔の高さまで檻を持ち上げて中を覗き込んで「まだ生きています」。結局は安楽死なのに死ぬと引き取ってもらえないので安堵。そして「しっぽが無いのでカラスにやられたのだろう」と。調べたら「リスのしっぽは緊急時に切れる。(1)根元から (2)途中から (3)毛と皮だけの 3 パターン。トカゲのしっぽのように再生しない」とのこと。なんともはや怖いことに。



以前、夫婦で初めてヨーロッパ旅行をした際、スイスの山々に魅了され美しい景色に感動した思い出があり、また機会があれば是非行ってみたい所、それが今回のスカンディナヴィア半島北歐ノルウェーにあるフィヨルドでした。

今回は大自然の造形美、氷河期から長い時間をかけて形成された入江、氷河により U 字、V 字に削られ沈降した陸地に海水が流れ込んだために切り立った絶壁など多様でダイナミックな景観は素晴らしく感動の連続でした。峡湾を流れる紺碧色の水、緑の山、そして澄み切った空の色が絶妙なコントラストに心が研ぎ澄まされ雄大な自然の力に癒されました。2018年5月下旬4か国（デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド）10日間の旅でした。



▲ハダングルフィヨルドにて

- ・ノルウェー（ベルゲン、ソグネフィヨルドクルーズ、フロム山岳鉄道、ハダングルフィヨルド）ハダングルフィヨルドからバスにてオスロへ移動（約 370 km）
- ・オスロ国立美術館では、巨匠ドヴァルド・ムンクの傑作「叫び」など鑑賞。
- ・フィログネルは彫刻家グスタフ・ヴィーゲランがデザインした大型公園で人体像など彫刻 212 点が配置されていて見応えがありました。
- ・オスロから空路でスウェーデン・ストックホルムへ移動。

スウェーデン・ストックホルム市庁舎は、毎年暮れに行われるノーベル賞公式晩餐会の会場として知られている場所ですが、日本で TV を通して見る華やかな晩餐会の会場になるとは思えないほど、

大変シンプルな赤茶色レンガの建物でした。内部は天井が高いが思ったより広くはなくスッキリしていた。そして壁に飾られたノーベルさんの肖像レリーフはとても印象的でした。

- ・王宮はオランダ・ルネッサンス様式の建物で部屋数は 600 以上。現在でも国王が執務している。



▲ストックホルム市庁舎（晩餐会会場）

◀ ノーベル・肖像レリーフ

- ・船にて水の都スウェーデン・ストックホルムからフィンランド・ヘルシンキへ移動（バルト海クルーズ）船中泊で見た水平線に沈む夕日は大変美しい眺めであった。
- ・フィンランド、シベリウス公園は市民が憩う広大な場所でフィンランドを代表するジャン・シベリウスの肖像レリーフとステンレスパイプの彫刻は圧巻。

今回の旅で感じたことは、消費税が 25%（日本の約 3 倍）で物価の高い事に驚きました。また高福祉国家であり日本とは大きく違いました。

北歐はキャッシュレスが多く、観光地でトイレを使用するにもカードでないと利用できないことに、大変びっくりしました。北歐の日没時間は午後 10 時頃なので（日本との時差が 7~8 時間）白夜の連続で少々疲れしました。

自然の違い、国民性、幸福度など日本との違いが様々あり、多くを知ることができ大変良い旅でした。

- 1) 行き先：伊香保温泉と谷川岳ロープウェイ&ぶどう狩り
- 2) 実施日：2018年9月27日(木)～28日(金)
- 3) コース：「1日目」情報総研 8：30⇒水澤観世音⇒万葉亭(昼食)⇒榛名神社・榛名湖畔⇒伊香保温泉・岸権旅館(宿泊)
「2日目」旅館 9：00⇒土合口駅・ロープウェイ⇒谷川岳天神平駅・ロープウェイ⇒土合口駅⇒原田農園(昼食・ぶどう狩り)⇒情報総研 18：00 (解散)
- 4) 参加者：22名 (内ご家族1名)

1日目 小雨の中大船を出発、特に渋滞もなく初めの目的地「水澤観世音」に到着。ここで干支により御本尊が異なることが判明、小生は亥年なので該当する阿弥陀如来と本堂を参拝。その後昼食。讃岐、稲庭とならぶ日本三大うどんの水沢うどん、シコシコした強コシ、ツルツルしたなめらかなのどごしを満喫。



先程の参拝が功を奏したか、雨も上がり「榛名神社」に到着。ところがこの神社、鳥居から本殿まで坂道と階段で25分程掛ると言われ一瞬たじろぐが、ゆっくり散策。途中色々の名所があり疲れもなく本殿に到着。ここでまたびっくり。なんと本殿が岩(御姿岩)の前面に接して建てられ、この御姿岩内の洞窟を本殿として御神体が祀られているとの事。また、この御姿岩、高さ50mあり40mぐらいの高さにしめ飾りがある。どのように取り付けるのか神社の人に聞いたが、「何時、どのように付けるかは秘密」との事。帰り道歴史風俗資料館に寄ったところ、小生が気になったのは、大正時代の教科書と通知表(現在の通信簿)。こんな時代から成績の査定があったとは思わなかった。

いよいよ今夜の宿、伊香保温泉「岸権旅館」に到着。ここでまたびっくり、なんと「5つ星の宿」で全国約39,500軒ある宿のうちの250軒の一つでした。5つ星の宿の条件は、「施設」「料理」「風呂」「サービス」「雰囲気」をプロが毎年評価して決めるとの事。温泉はカルシウム、ナトリウム・硫酸塩・炭酸水素塩・塩化物温泉(中性低張性温泉)。茶色で湯船にも付着、温度は低目で露天風呂は若干寒いくらいでした。5つ星に恥じない最高の旅館でした。

2日目 快晴。ロープウェイに乗り約5分で天神平に到着、更に上を目指しリフトへ。しかし集合時間もあり係員に聞いたところ往復20分と言うのでそれなら天神峠で5分は散策可能と思いリフトに乗車。ところがいざ乗ると13分も懸かりガックリ。集合時間に遅れることを覚悟に3分散策。遅刻して皆さんにはご迷惑を掛けたが、でも最高でした。

その後昼食。そして「ぶどう狩り」へ。ぶどうを食べまくってと期待して行った所、4粒の試食とぶどう一房を鉋で切って終わり。とても美味しかった。

帰路は道中何事も無く無事大船に到着。

最後に、小生今年3回目の一泊バス旅行でしたが、いずれも雨に遭遇。雨男かな？でも最高の旅行でした。

事務局

会員動向 (H30.4.21～H30.9.30)

■会員動向 (敬称略)

・会員数：230名 (H30年9月30日現在)

・入会者：3名

橋本 栄次 清水 和崇 森本 幸博

・物故会員：5名

安藤 純一 正木 欣一 南条 融

米山 晴義 玉田 幸吉

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記

台風24号の猛威で畑の物置小屋が飛ばされ、冬野菜の苗も大きなダメージを受けました。自然相手の露地栽培では仕方ないが、後始末が悩ましい。

編集責任者：桜井貫智

編集委員：馬場景一 皆川良司

印刷所：(株)さんこうどう